戦時下日本における漫画『翼賛一家』について

木下　美桜
（玉井研究会４年）

はじめに
Ⅰ　『翼賛一家』の沿革
　1　『翼賛一家』誕生の背景
　2　『翼賛一家』の概要
Ⅱ　『翼賛一家』のメディア上での展開
　1　新聞に登場する『翼賛一家』
　2　雑誌に登場する『翼賛一家』
　3　その他のメディアへの波及
Ⅲ　『翼賛一家』にみる理想の生活と日本人像
　1　理想の生活
　2　理想の男性像
　3　理想の女性像
おわりに

はじめに

昭和初期、「のらくろ」や「タンク・タンクロー」などと言った“子供漫画”が日本で多く誕生した。ミッキーマウスやベティ・ブープなど、海外で人気のあった作品もアニメーション映画として国内で上映されており、“漫画”というメディアは子供を中心とした多くの日本国民に親しまれていたと想像できる[1)]。漫画の有する大衆への普及効果は戦時下日本プロパガンダにも利用され、とりわけ昭和12年の日中戦争勃発以降に推進される国民精神総動員運動にも利用され

た[2)]。第二次近衛文麿内閣下、戦争体制づくりが進むと、政府主導で種々の企画が立てられたが、漫画も“翼賛漫画”と呼ばれその一翼を担うことになる。それを象徴する１つが、昭和15年に発足した大政翼賛会が積極的に推進し、本稿で注目する『翼賛一家』と称された一連の漫画企画である。

『翼賛一家』については、櫻本富雄が『戦争とマンガ』において作品を紹介しながら解説を加えているが、漫画の具体的な内容については詳述していない[3)]。

本論文では、上述の先行研究を踏まえ、『翼賛一家』に注目し、その内容について分析する。まず、第Ⅰ章においては『翼賛一家』誕生の背景や特色を概観し、第Ⅱ章ではメディア上で『翼賛一家』がどのように展開されたか検証する。第Ⅲ章では『翼賛一家』に描かれた銃後の理想的な生活、理想の人物像を明らかにする。

Ⅰ　『翼賛一家』の沿革

1　『翼賛一家』誕生の背景

「大政翼賛運動は国民全部の運動であって、国民の心からなる協力がなければかけ声だけではどうにもならないのです。支那事変を解決し東亜に新しい秩序を建て、日本を中心にして東亜の諸国がみんな共に栄え、進んでは世界の新しい秩序をうち建てるためには、是非とも高度国防国家をつくらなければならぬ。それには近衛総裁のいはれた『上御一人に対し奉り、日々それぞれの立場に於て奉公の誠を致す』ということをしっかり胸にたたみ込んで、2601年から毎日実践してゆく以外にはないのである」[4)]

これは昭和15年10月に発足した大政翼賛会が、翌年昭和16年を“実践の年”として雑誌『写真週報』に発表した文章である。彼らは、いわゆる“翼賛体制”を一般国民に広め、実践させるため、様々な宣伝活動を行った。大政翼賛会の事務局には総務、組織、政策、企画、議会という５つの局が存在し、そのうちの総務局にある宣伝部がその役割を担った[5)]。大政翼賛運動とはどんなものかを知らせるためのひとつのツールとして、大政翼賛会宣伝部が注目したのが、当時、子供を中心に人気を博していた“漫画”であった。同年、国民精神総動員本部との懇談により結成された新日本漫画家協会[6)]と協力し企画されたのが、『翼賛一家』というキャラクターである。

図１　『「大和一家」の面々と隣組の図』

（朝日新聞西部版昭和15年12月５日朝刊７面）

昭和15年12月５日に新聞各紙でお目見えされた『翼賛一家』は、その後約１年にわたり様々なメディアで取り上げられ、“翼賛体制”宣伝の役目を果たした。

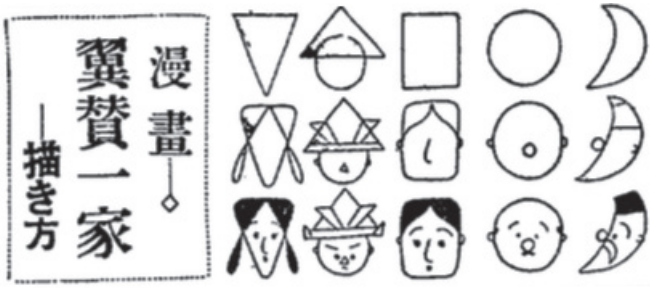
２　『翼賛一家』の概要

本節では、既述のように誕生した『翼賛一家』が、どのような特徴を有していたのかを説明する。

第一の特徴は、「大和一家」という11人の大家族が主人公である点だ。大和一家は、主人の大和賛平（48歳）、奥さんの大和たみ子（45歳）、おじいさんの大和武士（77歳）、おばあさんの大和ふぢ（70歳）、長男の大和勇（25歳）、長女の大和さくら（21歳）、次男の大和二郎（20歳）、次女の大和みさを（17歳）、三男の大和三郎（12歳）、三女の大和稲子（８歳）、四女の大和昭子（２歳）の11人で構成されており（図１）[7]、彼らと隣組を中心とした銃後の生活が物語の舞台となっている。彼らは「朝のラヂオ体操から夕の団欒まですべて臣道実践、翼賛一色の申し分ない家庭」[8] という設定であり、彼らに大政翼賛会の理想とする生活や人物像が投影されていると考えられる。

第二に、特定の作家は存在せず、誰でも大和一家の作品を作ることができる点

図２　『漫画翼賛一家　描き方』



（朝日新聞西部版昭和15年12月８日朝刊４面）

である。「協会員は誰でもこの人物を駆使し得るのですが、協会に加入してない方でも版権は宣伝部に献納しているので翼賛会の了解を得て使って頂きたいと思っています」[9] とあるように、新日本漫画家協会に所属していない漫画家及び一般人も、無料で『翼賛一家』のキャラクターを用いて漫画を執筆することが許されていた[10]。

それに付随して、各キャラクターの顔は「夫婦は円形、祖父母は三日月、長男長女は四角、次男次女は三角、三男三女は円形、幼児はドングリ形」[11] と、とても簡単な線画で描かれている。昭和15年12月８日の『朝日新聞』には、賛平、武士、さくら、みさを、三郎の顔の描き方が紹介されており、「その他の家族は大体この型でかけます」と説明されている（図２）。

第三に、『翼賛一家』は漫画キャラクターとして企画されたものであったが、その文言は漫画に限らず、「理想的な家族」という意味を示す代名詞として用いられることも多かった。例えば、『朝日新聞』では、昭和15年末の「古釘を蒐める“翼賛一家”」という記事において、「事変勃発以来３年余一家５人総出で50貫の古釘を蒐めた『翼賛一家』がある」と実在する家族を紹介しており[12]、翌16年１月には「三つ兒が揃って軍人」という記事において、該当一家を「正に子宝報国の圧巻とも云うべき“翼賛一家”」と称している[13]。『大阪毎日新聞』では、「新体制『隣組風景』 町会自作自演の傑作」という記事において、翼賛一家のキャラクターである賛平とたみ子が劇に出演している様子を描いたイラストを掲載している[14]。この記事には、東淀川区のとある町会で開催する町会厚生娯楽大会にて、町会全員自作自演の劇を披露することが記されている。披露される劇は『翼賛一家』を銘打っていないものの、模範的な町会を描いたものであったことから

『翼賛一家』のキャラクターが用いられていたのだろう。

このように漫画以外で「翼賛一家」という文言が利用されたのは、新聞以外のメディアでも同様であった。例えば、雑誌『日産農業』の「大和翼賛一家」という記事では、奈良県磯城群朝倉村の尾崎増太郎君を中心として家族を「大和翼賛一家」と呼び、「翼賛一家は4時半手廻しサイレンで起床する。直ぐに作業姿になり、先ず国旗掲揚。皇居遥拝の後朝食。それから職場だ。」など、彼らの模範的な過ごし方を写真付きで説明している[15)]。また、『嗚呼特別攻撃隊』という書籍の中では、軍神・横井正治少佐の家族を「翼賛一家」とたとえている[16)]。男7人、女5人の兄妹12人という大家族であることから、この言葉が用いられたのだと考えられる。

前節で述べたように、『翼賛一家』は翼賛運動の啓蒙のために作られた。簡単に誰でも描けるキャラクター設定にすることで、大政翼賛会が描く理想的な日常が多くの人に広まることが期待されたのだろう。

Ⅱ　『翼賛一家』のメディア上での展開

漫画キャラクターとして出発した『翼賛一家』は、前章で説明したように著作権フリーにし誰でも簡単に描ける工夫をしていたこともあり、新聞・雑誌に留まらず、様々なメディアに登場することになる。本章では、どのようなメディアに、どのような形式で同漫画が掲載されたのか検証していきたい。

1　新聞に登場する『翼賛一家』

昭和15年12月5日に新聞各紙でお目見えされた『翼賛一家』であるが、その後、各紙様々な方法で同漫画を登場させている。

『朝日新聞』では、昭和15年12月6日から28日まで、家庭面において読者から募ったイラストを掲載している。「愉快で元気な一家の人々を登場さして、翼賛する姿の百態を皆さんの日常生活から拾った新体制風景その他の思いつきを漫画に描いて振って投稿願います。」[17)] という一文とともに昭和15年12月5日、応募要項が掲載され、同月24日まで募集がかけられた。どのくらいの応募があったのかは定かではないが、毎日1枚ずつ、計20枚のイラストが掲載された。その中には、南義郎や加藤芳朗、太田二郎などの漫画家による作品も存在したが、その他の多くは一般の読者によるイラストだと考えられる。イラストの内容は「お昼は

表１　『朝日新聞』応募漫画一覧

掲載日	作者	タイトル
1940/12/6	南義郎	お昼は代用食
1940/12/7	仇伴	早起き
1940/12/8		
1940/12/9	石澤博江	一列励行
1940/12/10	増田正二	娯楽も時間制
1940/12/11	加藤芳朗	廃物利用研究会
1940/12/12	小堀元	火に当るより陽にあたれ
1940/12/13	加藤正春	隣保共助
1940/12/14	平山俊郎	徒歩奨励
1940/12/15		
1940/12/16	黒沼留男	号令
1940/12/17	神谷泰江	家庭告知板
1940/12/18	加藤清	清き一票
1940/12/19	太田二郎	団結
1940/12/20	河野眞兵	貯蓄報国
1940/12/21	篠崎儀一	節米に鼠退治
1940/12/22		
1940/12/23	宮崎ふみを	趣味を活かせ
1940/12/24	櫻井しげる	何事も率先
1940/12/25	霜鳥秀	あるく一家
1940/12/26	山本繁	スパイ御用心
1940/12/27	平田一	職工さん失敗
1940/12/28	小野寺信雄	一日一善

注：塗りつぶしてある箇所は掲載なし

代用食」[18] や「娯楽も時間制」[19]、「火に当るより陽にあたれ」[20] など、新体制における教訓のようなものばかりであった（表１）。

翌年１月１日からは、「新春の計」というタイトルで15日まで計11回、記事が連載されている。それぞれ11人のキャラクターたちにスポットが当てられ、各キャラクターに関連したテーマで、有識者の解説文を掲載している（表２）。例えば、１月13日では「新しき学徒のあり方について翼賛青年部長栗原美能留氏を訪ねその会見談を友人Ａに新年の挨拶代りに送りました。」という書き出しから、

表２　『朝日新聞』連載「新春の計」一覧

掲載日	主人公	タイトル	有識者
1941/1/1	たみ子	元日の夜に家庭常会 万事虚礼廃止で行く	高良富子（日本女子大学教授）
1941/1/2	勇	仕事を中心に新理念を摑め 親もまた新しい心構えで指導	住田正一（国際汽船取締役）
1941/1/3			
1941/1/4	武士	進んだ文化が長生きに支障 文化の長、短所を知るが大切	西川義方（博士）
1941/1/5			
1941/1/6	ふぢ	大切な休養を忘れては短命 鍛錬には散歩と日向ぼっこ	西川義方（博士）
1941/1/7	三郎	入試に禍する母親の心配顔 平常のしつけを生地のままに	二階源市（東京府立第六中学校）
1941/1/8	みさを	何を読むか 神話・伝説・古典・動物記など たのしい読書の基準	野上彌生子
1941/1/9	賛平	脂肪ぶとりと高血圧への用心 厄年の悲哀を味わぬように	栗本義彦（厚生省体育官）
1941/1/10			
1941/1/11	さくら	食べたい栄養　恥ずかしいは禁物 弊害多い晩婚をさけよ	竹内茂代（博士）
1941/1/12			
1941/1/13	二郎	歴史への理解 今年こそ青年の第一の仕事	栗原美能留（翼賛青年部長）
1941/1/14	昭子	自然の生活を妨げるな 乳児の成長と母の立場	斎藤文雄（愛育研究所保健部長）
1941/1/15	稲子	お餅の数も 算術の勉強になりました	山本セイ （東京女子高等学校附属小学校）

注：塗りつぶしてある箇所は掲載なし

専門家の意見が掲載され、大和家の学徒である二郎のイラストが添えられている。その他、たみ子は正月料理の品数を減らすなどといった、元日の過ごし方や食事について[21]、勇は出世より公益を重視する会社員としての考えについて[22]、武士とふぢは健康に長生きする方法について[23]、三郎は入学試験の仕方が変わったことをうけ、その対策について[24]、賛平は壮年の体力について[25]、さくらは早婚を推奨する理由について[26]、昭子は丈夫な子供を育てることについて[27]、稲子は家

の手伝いと勉強について[28]など、時局に関わる内容となっている。一方で、みさをのイラストが描かれた記事では女学生が読むべき本について[29]説明されており、時局とは関連のない内容も存在していた。

『読売新聞』では、昭和15年12月10日から翌年４月２日まで、宍戸左行による『大和家の翼賛日記』という４コマ漫画が連載されている。全部で95話あり、最終回は、昭子が植えた木の枝は共栄圏確立までにどれくらい太くなるかと話す三郎に続き、「戦はこれからだ」と万歳する大和一家の姿で終了する[30]。その他の話の内容については、第Ⅲ章でも後述するが、基本的には時局に纏わるものであった（**表３**）。

また、昭和16年１月28日の朝刊にて「万民翼賛とは如何なることか――これを漫画形式の映画により、極めて平易に愉快に朗らかに解明して、一億一心、未曾有の時期を突破して肇国の理想実現に邁進する国民の士気高揚に資することとしました。」[31]と、映画のシナリオを読者から募集するための社告が掲載されている。審査員には内務省の中野敏夫、文部省の三橋逢吉、情報局の不破祐俊、放送協会の國[?]正雄、松竹の城戸四郎、日活の岡庄吾、東宝の大橋武雄、翼賛会の久富達夫、喜多壮一郎、岸田国士といった様々な方面の権威が名を連ねていた[32]。同年３月２日の朝刊にて、堀精一という塗装業を営む青年の作品が当選し、「本社映画部にて直ちに映画を製作し全国的に上映」[33]することが発表されたが、その後、本当に上映されたのかは不明である。

最後に、『大阪毎日新聞』では昭和16年１月５日から同年７月６日まで、夕刊にて『われらよくさん一家』という４コマ漫画が連載されている[34]。「『新漫画派集団』のみなさんにお願いして、わたしたち11人と犬、猫、鶏を加えた家族をそれぞれ１人１役ずつを受持っていただいて、大和一家の翼賛比べを紙上でお目にかけることになりました。どうぞ御声援下さい。」[35]とあるように、賛平を横井福次郎、たみ子を中村篤九、武士を小山内龍、ふぢを清水崑、勇を杉浦幸雄、さくらを近藤日出造、二郎を秋吉馨、みさをを村山しげる、三郎を益子善六、稲子を石川進介、昭子を石川義夫（利根）、ペットを矢崎茂四が担当し、それぞれのキャラクターを主人公とした漫画を創作している。全143話で、先述した『大和家の翼賛日記』と同様、多くが時局に関連した内容であった（**表４**）。

２　雑誌に登場する『翼賛一家』

昭和15年12月５日、『翼賛一家』が新聞にて初お目見えされた時、考案者の１

表３　『大和家の翼賛日記』一覧

掲載日	テーマ
1940/12/10	節約
1940/12/11	体操
1940/12/12	貯金
1940/12/13	再利用
1940/12/14	節約
1940/12/15	その他（注１）
1940/12/16	労働
1940/12/17	節約＆健康
1940/12/18	贈答禁止・慰問袋
1940/12/19	節約・代用食
1940/12/20	耐寒訓練
1940/12/21	節約
1940/12/22	節約
1940/12/23	廃品回収
1940/12/24	公益優先
1940/12/25	その他
1940/12/26	節約
1940/12/27	不明
1940/12/28	
1940/12/29	その他
1940/12/30	
1940/12/31	
1941/1/1	
1941/1/2	翼賛・防諜・空襲
1941/1/3	
1941/1/4	再利用
1941/1/5	その他
1941/1/6	お手伝い
1941/1/7	助け合い
1941/1/8	健全娯楽
1941/1/9	その他
1941/1/10	相撲・体操
1941/1/11	相撲
1941/1/12	相撲

掲載日	テーマ
1941/1/13	相撲・国民服
1941/1/14	相撲
1941/1/15	相撲
1941/1/16	相撲
1941/1/17	体力
1941/1/18	
1941/1/19	その他
1941/1/20	
1941/1/21	慰問袋
1941/1/22	夜番
1941/1/23	不明
1941/1/24	夜番・夜遊び禁止
1941/1/25	早婚奨励
1941/1/26	多産
1941/1/27	
1941/1/28	労働
1941/1/29	体力
1941/1/30	その他
1941/1/31	
1941/2/1	避難演習
1941/2/2	避難ごっこ
1941/2/3	花嫁教育・炭団づくり
1941/2/4	花嫁教育・廃品回収
1941/2/5	
1941/2/6	花嫁教育・生け花
1941/2/7	貯金
1941/2/8	買い物
1941/2/9	廃品利用
1941/2/10	廃品利用
1941/2/11	徒歩
1941/2/12	花嫁教育・裁縫
1941/2/13	その他
1941/2/14	多産
1941/2/15	防諜

掲載日	テーマ
1941/2/16	スケート
1941/2/17	お弁当・米・芋
1941/2/18	その他
1941/2/19	自転車
1941/2/20	勉強・運動
1941/2/21	防諜
1941/2/22	その他
1941/2/23	落下傘部隊
1941/2/24	機械化部隊
1941/2/25	その他
1941/2/26	米・芋
1941/2/27	その他
1941/2/28	不明
1941/3/1	
1941/3/2	芋
1941/3/3	その他
1941/3/4	芋・運動
1941/3/5	その他
1941/3/6	勉強・節約
1941/3/7	体操
1941/3/8	その他
1941/3/9	陸軍記念日
1941/3/10	芋
1941/3/11	静座

掲載日	テーマ
1941/3/12	労働
1941/3/13	宿題
1941/3/14	その他
1941/3/15	回覧板
1941/3/16	落下傘
1941/3/17	その他
1941/3/18	
1941/3/19	乗馬
1941/3/20	その他
1941/3/21	
1941/3/22	
1941/3/23	その他
1941/3/24	節約
1941/3/25	節約
1941/3/26	
1941/3/27	
1941/3/28	防空壕
1941/3/29	
1941/3/30	登校練習
1941/3/31	
1941/4/1	
1941/4/2	共栄圏確立・戦はこれから

注１：戦時色はうかがえない日常の場面を描いたもの
注２：塗りつぶしてある箇所は掲載なし

人であり、新日本漫画家協会委員である横山隆一は「このうち会社員や大学生は青年の雑誌に、老人は盆栽の本などに、赤ちゃんや子供は子供の雑誌に登場させれば面白いだろうと思うのです。」と語っていた[36]。その発言の通り、『翼賛一家』は様々な雑誌に登場している。

まず、田園青年向けの教養雑誌である『新青年』[37] には、南達彦の書いた『ユーモア小説　大和一家とアメリカ』が、横井福次郎のイラストとともに掲載されている[38]。アメリカに住む勇の友人から、アメリカでは、日本が食糧難で雑草を奪い合い、長靴をフライにして食べている、という噂が流れていると手紙が届き、その噂を払拭しようとする大和一家の様子が描かれている。他のメディアに登場

表４　『われらよくさん一家』一覧

掲載日	主人公	テーマ
1941/1/5	賛平	その他（注１）
1941/1/6		
1941/1/7	たみ子	労働
1941/1/8	ふぢ	不明
1941/1/9	三郎	その他
1941/1/10	ふぢ	その他
1941/1/11	昭子	相撲
1941/1/12	二郎	柔道
1941/1/13		
1941/1/14	賛平	その他
1941/1/15	勇	徒歩
1941/1/16	ペット	多産
1941/1/17	稲子	その他
1941/1/18	武士	不明
1941/1/19	賛平	運動
1941/1/20		
1941/1/21	ふぢ	不明
1941/1/22	三郎	大政翼賛マーク
1941/1/23	武士	労働
1941/1/24	昭子	防諜
1941/1/25	みさを	節約
1941/1/26	二郎	運動
1941/1/27		
1941/1/28	たみ子	代用食
1941/1/29		
1941/1/30	稲子	禁酒
1941/1/31	ペット	金属回収
1941/2/1	昭子	貯金
1941/2/2	みさを	節約
1941/2/3	勇	貯金・隣組
1941/2/4		
1941/2/5	武士	火の用心
1941/2/6	三郎	口頭試問
1941/2/7	二郎	その他

掲載日	主人公	テーマ
1941/2/8	たみ子	節約
1941/2/9	勇	時局を語る
1941/2/10		
1941/2/11	さくら	パーマ
1941/2/12		
1941/2/13	三郎	運動
1941/2/14	三郎	不明
1941/2/15	昭子	不明
1941/2/16	たみ子	節約
1941/2/17		
1941/2/18	昭子	その他
1941/2/19	賛平	その他
1941/2/20	二郎	皆勤
1941/2/21	ペット	その他
1941/2/22	稲子	米
1941/2/23	賛平	時局を語る・徒歩
1941/2/24		
1941/2/25	ペット	早起き
1941/2/26	たみ子	新体制と旧体制
1941/2/27	ペット	出征見送り
1941/2/28	稲子	消防
1941/3/1	三郎	支那事変国債・禁煙
1941/3/2	勇	整列
1941/3/3		
1941/3/4	三郎	徒歩
1941/3/5	ペット	隣組
1941/3/6	武士	再利用
1941/3/7	武士	その他
1941/3/8	武士	その他
1941/3/9	みさを	親独
1941/3/10		
1941/3/11	二郎	その他
1941/3/12	たみ子	多産
1941/3/13	武士	節約・代用品

掲載日	主人公	テーマ
1941/3/14		
1941/3/15	二郎	その他
1941/3/16	みさを	節約
1941/3/17		
1941/3/18	武士	その他
1941/3/19	稲子	子守
1941/3/20	三郎	不明
1941/3/21	ペット	事変国債
1941/3/22		
1941/3/23	ペット	国債
1941/3/24		
1941/3/25	ペット	その他
1941/3/26	二郎	その他
1941/3/27	二郎	その他
1941/3/28	二郎	その他
1941/3/29		
1941/3/30	ふぢ	その他
1941/3/31		
1941/4/1	ふぢ	その他
1941/4/2	ふぢ	その他
1941/4/3	昭子	徒歩
1941/4/4		
1941/4/5	三郎	その他
1941/4/6	みさを	防寒・節約
1941/4/7		
1941/4/8		
1941/4/9	ふぢ	その他
1941/4/10	三郎	その他
1941/4/11	ふぢ	その他
1941/4/12	みさを	国防献金
1941/4/13	ふぢ	その他
1941/4/14		
1941/4/15	昭子	労働
1941/4/16	勇	節約
1941/4/17	二郎	節約

掲載日	主人公	テーマ
1941/4/18	三郎	労働
1941/4/19	三郎	労働
1941/4/20	三郎	労働
1941/4/21		
1941/4/22	たみ子	その他
1941/4/23	たみ子	その他
1941/4/24	たみ子	節約
1941/4/25	昭子	その他
1941/4/26	昭子	その他
1941/4/27	昭子	その他
1941/4/28		
1941/4/29	昭子	その他
1941/4/30		
1941/5/1	二郎	その他
1941/5/2	二郎	体力
1941/5/3	みさを	その他
1941/5/4	みさを	節約
1941/5/5		
1941/5/6	みさを	その他
1941/5/7	稲子	その他
1941/5/8		
1941/5/9	三郎	節約
1941/5/10	ふぢ	その他
1941/5/11	ふぢ	その他
1941/5/12		
1941/5/13	賛平	その他
1941/5/14	三郎	日の丸
1941/5/15	三郎	不明
1941/5/16	三郎	不明
1941/5/17		
1941/5/18	稲子	不明
1941/5/19		
1941/5/20	稲子	その他
1941/5/21	稲子	その他
1941/5/22	ふぢ	相撲

掲載日	主人公	テーマ
1941/5/23	ふぢ	相撲
1941/5/24	ふぢ	相撲
1941/5/25	昭子	その他
1941/5/26		
1941/5/27	昭子	その他
1941/5/28	みさを	労働
1941/5/29	みさを	労働
1941/5/30	みさを	労働
1941/5/31	二郎	禁煙
1941/6/1	二郎	体力
1941/6/2		
1941/6/3	二郎	その他
1941/6/4	稲子	その他
1941/6/5	稲子	不明
1941/6/6	勇	禁煙
1941/6/7	勇	禁煙
1941/6/8	勇	禁煙
1941/6/9		
1941/6/10	たみ子	不明
1941/6/11	三郎	衛生
1941/6/12	勇	体力
1941/6/13	稲子	その他
1941/6/14		
1941/6/15		

掲載日	主人公	テーマ
1941/6/16		
1941/6/17		
1941/6/18		
1941/6/19	三郎	慰問袋
1941/6/20	三郎	慰問袋
1941/6/21	三郎	慰問袋
1941/6/22	昭子	体操
1941/6/23		
1941/6/24		
1941/6/25	昭子	体操
1941/6/26	昭子	体操
1941/6/27	二郎	時局を語る
1941/6/28	二郎	勉強
1941/6/29	二郎	禁酒
1941/6/30		
1941/7/1	ふぢ	その他
1941/7/2	ふぢ	その他
1941/7/3	ふぢ	その他
1941/7/4	ふぢ	その他
1941/7/5	ふぢ	徒歩
1941/7/6	ふぢ	徒歩

注１：戦時色はうかがえない日常の場面を描いたもの
注２：塗りつぶしてある箇所は掲載なし

する『翼賛一家』は、子供でも分かる簡単な内容がほとんどであったが、青年向けの教養雑誌だからか、他国の情勢などを踏まえた難しい内容になっていた。

また、大日本雄弁会という現在の講談社より出版されていた少年向け雑誌『少年倶楽部』にも『翼賛一家』は登場していた。中島三郎『翼賛一家さぶろう君』[39] という漫画である。空地を使って隣組でジャガイモをつくることになったことを知り、空地の草むしりを買って出るさぶろう君。更にはとった草を兎にあげたり、泣いている子どものお守りをしたり、模範的な少年の姿が描かれている。

続いて、女性向けの雑誌にも登場している。婦選獲得同盟機関紙である『女性展望』という婦人雑誌には、吉田優子によるセリフ付きのイラストが掲載されて

いる。『新体制翼賛正月大和一家』[40]、『翼賛二月大和一家』[41]、『大和一家の翼賛三月』[42]、『大和家翼賛四月』[43]、『翼賛五月』[44] というタイトルで、「『福は内』は豆まきをしないですることに決まった」、「うちの内裏様は国民服とカッポウ着」などといった、それぞれの季節に合った内容になっていた。同じく女性向けの投稿雑誌である『若草』にも、大和一家のキャラクターたちを主人公にした小説が４作掲載されていた[45]。永見隆二の『神童実践――賛平さんの場合』、三木蒐一の『青春の号令――長男、勇君の巻』、北町一郎の『縁談お断わり――大和さくら嬢』、大庭鐵太郎の『三郎君の疑問』である。

また、『翼賛一家』は専門雑誌にも登場していた。農業の専門雑誌である『農業世界』には、芳垣青天の『翼賛一家の朗らか農園』という漫画が掲載されていた[46]。大和一家で農園にハイキングに行く様子を８コマ漫画で描いたものである。

このように、『翼賛一家』は老若男女問わず、様々な人を対象に用いられていた。

３　その他のメディアへの波及

『翼賛一家』は新聞や雑誌にとどまらず、各方面で引っ張り凧な存在となった。

『翼賛一家』がメディア上で登場した約２週間後には、『朝日新聞』にて「声の『翼賛一家』22日夜ラヂオに登場」[47] という記事が掲載されている。社団法人東京放送局による「ラジオ風景」という番組に登場し、台本は高田保という劇作家が担当した。登場人物の声は、賛平を池田忠夫、たみ子を牧マリー、武士を田邊若男、ふぢを小百合優子、勇を宮口精二、さくらを佐々木信子が演じ、この大和一家たちは翌年から「子供の時間」という番組にも登場すると発表されている[48]。

同月26日には紙芝居にも登場する[49]。大日本画劇株式会社の鈴木喜平が大政翼賛会宣伝部に披露する様子が読売新聞に掲載されている。内容は以下のとおりである。

> みさをが「炭がないよ」と炭箱の底を叩けば武士さんが炭俵をかついで家の周りを走り回る。火にあたるよりも走った方が暖かいという次第。三郎が「ご飯だ」と駆け込めばお櫃の中には代用品の食パンばかりといった具合の翼賛体制版[50]。

この紙芝居は翌日27日には街頭に出て使われていたようだ。

続いて、『翼賛一家』はレコードにもなった。大政翼賛会宣伝部監修のもと、

昭和16年３月にコロンビアレコードにて発売された。２曲収録されており、そのうち１曲が『新体制家庭音頭（大和一家の歌）』というサトウ・ハチロー作詞、古賀政男作曲、奥山貞吉編曲で作られたものである。伊藤久男、霧島昇、松原操、菊池章子、コロンビア合唱団により歌われた[51)]。以下、その歌詞である。

サッと来た
サッと来たしょサッとね
人に好かれて　明るく強く
大和一家の　くらし振り
つないで輝く　心と心ヨイトサノサ
家庭は小さな　翼賛会

サッと来た
サッと来たしょサッとね
続く戦は　興亜の為と
大和一家は　みな唄う
どの様な仕事も　みな戦場とヨイトサノサ
持場で持場で　御奉公

サッと来た
サッと来たしょサッとね
裏の空地に　すき鍬入れて
大和一家が　種をまく
丹精こらして　実を取入れてヨイトサノサ
笑顔でわけます　隣組

サッと来た
サッと来たしょサッとね
近所隣りの　苦労を共に
大和一家の　つとめぶり
心つたえて　常会毎にヨイトサノサ
町でも村でも　晴れて行く

サッと来た
サッと来たしょサッとね
私心さらりと　捨てて
大和一家は　新体制
忘れてならない　兵隊さんのヨイトサノサ
姿を浮かべりゃ　出る元気

サッと来た
サッと来たしょサッとね
見ても聞いても　たのしいものは
大和一家の　窓の中
立派な日本に　生まれた幸をヨイトサノサ
讃えて育てて　伸びて行く
サッと来た
サッと来たしょサッとね[52)]

“どの様な仕事もみな戦場”や“私心さらりと捨てて”など、国民全員が戦争に向かう意識を植え付けるフレーズや、空地を利用して農業をする様子を描いた歌詞が見受けられる。

『新体制家庭音頭（大和一家の歌）』のＢ面として収録されたのが『大和一家数え唄』である。新日本漫画家協会会員が作詞を担当し、作曲は『新体制家庭音頭（大和一家の歌）』と同様に古賀政男が、編曲は仁木他喜雄が担当している。また古川ロッパ、若原春江、高橋祐子という著名人たちがこの歌を歌ったようだ[53)]。歌詞は以下のとおりである。

あけたあけたと幕をあげ
トトンとまかり出ましたは
一つ日の出と共に起き
一二と体操お父さん
二つふたりとないお母さん
明けても暮れてもカッポウ着
三つ三日月おじいさん

お髭をしごいて建設だ

あけたあけたと幕をあげ
トトンとまかり出ましたは
四つよい事忘れずに
つぎつぎなさるおばあさん
五つ勇んで勇さん
国民服で御出勤
六つ娘は花ざかり
モンペ小町のさくらさん

あけたあけたと幕をあげ
トトンとまかり出ましたは
七つ何より健康と
希望にもえてる二郎さん
八つやさしいみさをさん
毎日書きます慰問文
九つこころも朗らかに
未来の兵隊三郎さん

あけたあけたと幕をあげ
トトンとまかり出ましたは
十でとうから稲子さん
お手伝やら使いやら
十一一番末の子は
いつも笑顔の赤ちゃんよ
そろたそろたよみんな丈夫
大和一家は新体制[54)]

早起きをして体操をする賛平や毎日慰問文を書くみさをなど、11人それぞれの理想的な姿が歌詞に現れている。

これら2曲はその後、体育民謡舞踊などにも用いられ、「体育と教材として最

もふさわしい国民的舞踊である」[55] と渋井二夫は述べている。

また、『大和一家数え歌』で登場し『新体制家庭音頭』で幕を閉じる『朗らかな大和一家』という劇も上映されたようだ。ストーリーはいたって普通のものであるが、「廃品回収」や「代用食」など、時局を表す言葉が多くセリフに用いられている[56]。

その他にも、大和一家を模した雛人形[57] や、大和一家が登場する川柳[58] など、様々な領域で『翼賛一家』は利用されており、当時の日本において大きな影響力を持っていたことが分かる。

Ⅲ　『翼賛一家』にみる理想の生活と日本人像

本章では、「大和一家」が当時の理想的な家族であったという特徴をもとに、大政翼賛会が当時の人々にどのような生活や人物像を理想として要求したかを検証する。

1　理想の生活

『翼賛一家』は、同時代の国民の生活を写し出すものであったのであったが、その生活面で最も多かったテーマは節約や貯金に関するものである。日米関係が悪化する昭和15年後半から輸入が困難となったことを受け、政府は物的資源や資金を調達し軍需へ充てるため節約や貯金を呼びかけていたが[59]、同漫画にもそれが反映されていた。

節約に関しては、『大和家の翼賛日記』では、火や水を節約するために風呂のお湯が少なくなってしまったと嘆く二郎の声を耳にし、三郎が賛平を風呂に入らせて水をかさ増しさせた、という内容のもの（図３）[60]、家族がご飯を食べ終え、たみ子とさくらの分のご飯はほとんど残っていなかったが、「晩御飯が足りないときはこれに限る」と、塩辛いメザシを食べ、水をたくさん飲むことで空腹を満たした、というもの[61] など、節約による弊害への対策を描いたものが多く存在した。『われらよくさん一家』には、随分半端な量の野菜を注文するたみ子に八百屋は疑問を持つが、無駄のない分量を計算した結果であった、という内容[62] や、二郎の服の袖が、みさをの手によって稲子の靴下に作り直されており、それを見て「去年はそれだけ無駄があったのか」とつぶやく、といった再利用を奨励するもの[63] などがあった。また、三郎の友達が金魚を「ぎょ」と呼んでおり、「金

は節約したんだよ」と説明する頓知の効いた話[64]も存在した。

貯金に関しては、『大和家の翼賛日記』には、みさをが稲子と三郎に何か買ってあげようと提案すると、隣組貯金に貯金したいがために現金を要求した、というもの[65]、『われらよくさん一家』には、みさをがどれだけ貯金に回すか悩んでいたお金を、目を離した隙に昭子が全部貯金してしまうが、「無駄遣いしなくてすんだわ」と感謝する、というもの[66]などがあった。

中でも、代用食として芋を推奨する内容が散見された。たとえば『大和家の翼賛日記』では、米と芋で作られた弁当を食べるたみ子と昭子の様子を見て、周囲の人が笑顔になる、というもの[67]や、芋を作っている農家の人を兵隊さんと同じように崇める様子[68]などが描かれている。

図3　『大和家の翼賛日記』12話

また、『写真週報』に掲載された各キャラクターの紹介文にも節約・貯金を推奨する内容が含まれており、みさをを「『食物に捨てるところはない』というのが彼女の標語で、魚の骨でつくった特殊な副食物に『みさをまぶし』と名付けたりして一家の食卓を賑わす。」と紹介している[69]。

続いて多かったのは、徒歩を推奨する内容である。『大和家の翼賛日記』では、賛平が勇やふぢ等を連れて徒歩練習に出かけると、残った武士と昭子も犬やニワトリを率いて家で徒歩練習をはじめる、という話[70]、『われらよくさん一家』には、ふぢが昭子をおぶっている時に近所の人と話していると不機嫌になり、歩き始めると笑顔になる、というもの[71]などがあった。また先述した『朝日新聞』の募集イラストには、武士、ふぢ、昭子がバスに乗って帰るのを、「歩いて帰ります。」と手を振るみさを、三郎、稲子の様子[72]が描かれており、特に若者に奨励されていたことが分かる。

また、『写真週報』には、乳母車に乗っていた、歩けないはずの昭子が「ある

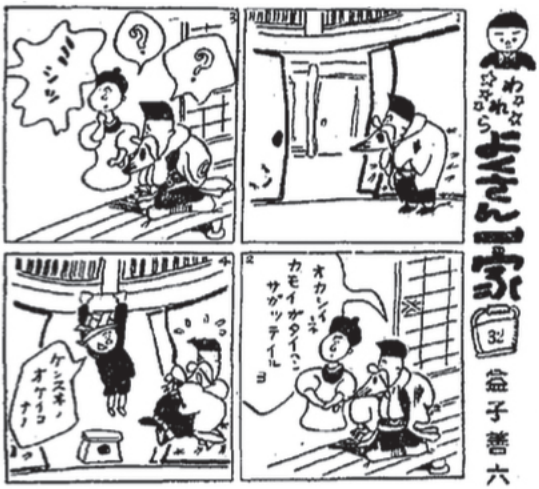
図４　『われらよくさん一家』73話

きましょう」と書かれた立て看板を見て急に歩き出すという３コマ漫画[73]が掲載されており、ユーモラスに徒歩を奨励するものもあった。

その他には、かくれんぼで鬼になった稲子が、みんながどこに行ったのか昭子に聞くと、「私はスパイ嫌よ」と答える、といった防諜に関するもの[74]や、隠れてタバコを吸う友人を見つけては火を消す二郎[75]や、酔っ払いにぶつかった紙飛行機を「酔っ払いをやっつけたからいい飛行機」と言う稲子[76]など、禁煙や禁酒に関するものなどもいくつか存在した。

特筆すべきは、連載漫画において、すべての漫画が戦時色であったわけではないということである。野球をするために三郎がバットを持って出たが、それが実はすりこぎで、家でたみ子が困っている（図４）[77]、といったような、現代でも通用する日常風景を描いたものも多く存在していた。また、「歩けー歩けー」と言いながら歩いているふぢを見て、バス停に並んでいた男が「いいよ歩くよ」と歩き始めるも、いつの間にかふぢはバスに乗っており男の横を悠々と通過していく、というユーモアを交えた話[78]もあり、４コマ漫画ならではのストーリー性を重視したものも存在していた。これらのことから、当時の言論空間が必ずしも戦争一色に統制されていたわけではないことが見てとれる。

図５　『われらよくさん一家』32話



２　理想の男性像

本節では前節同様、『翼賛一家』の内容から、当時の理想の男性像について分析する。

第一に求められたものは体力である。満州事変以降、国防の強化が緊急の要務となり、さらに日中戦争の長期化を受けて、兵力の増強が国策の中で最も重視されていたことが影響しているだろう[79)]。

『大和家の翼賛日記』にさくらの縁談について描かれたものがある。縁談相手として現れた男性は家柄もよく金持ちであったが、武士は「体力検査章をもっているか、持っていなければ俵を担いでみろ」と要求する。結局、男性は俵に下敷きにされてしまい、縁談はなかったことになる、という落ちである[80)]。このストーリーからも男性にとって体力が非常に重要視されていたことが分かる。また、雑誌『若草』に掲載されていた永見隆二の『神童実践――賛平さんの場合』というコント小説では、頭がよく神童と言われていた青年に対する、賛平の「（ふん、神童が何じゃ、哲学が何じゃ！　大和一家では、そんな教育は大嫌いじゃ！　少年は少年らしく、元気いっぱいに育ち、健全な肉体と健全な精神を涵養して、次の日本を背負って立たにゃならんのだ。それが、少年としてのシンドウ実践じゃ！）」という心の声が記されており、このことからも当時は頭脳よりも体力

を重視していたことが窺える[81]。

関連して、運動を奨励する話も多く存在した。『われらよくさん一家』では、武士が家の鴨居が下がっていることを不思議に思っていると、三郎がそこで懸垂の稽古をしていた、という話（図５）[82]や、賛平らはご飯のメザシにがっかりしていたが、運動した後だったためとても美味しくかんじ、ご飯を何杯もおかわりする、という運動によるメリットを伝える話[83]などがあった。

基本的に、体力や運動に関する話は二郎や三郎などが主人公となっていることから、青少年を中心に体力が求められていたと考えられる。しかしその一方で、『朝日新聞』の『新春の計』という連載記事には、「40歳から50歳の人々が永遠の若さを身にこめて溌剌と働く時こそ翼賛実現の第一歩」[84]と書かれており、青少年だけでなく壮年層にも体力が求められていたことが分かる。

第二に、働き者であることが男性には求められていたようだ。雑誌『若草』に掲載された北町一郎の『縁談お断り――大和さくら嬢』[85]という小説は、さくらが叔母から持ちかけられた縁談を断る、という話であるが、その断った理由からそれが推測できる。「会社内の産業報国会で勤労奉仕をすることとなり、あの方はその常番の１人にあたったのだそうですが、土運びや土方の真似はいやだと言って、後輩のこの社員へ代用作業を命じ、金何円とかの買収費で承知させたのだそうです。（中略）こういう青年に、日本の建て直しが、国防国家の建設という大事業が、出来よう筈はございません。」とある。この縁談の相手は父親が立派な実業家であり、容貌、健康、学識、教養などを考えると大和家にはもったいないくらいであった。しかしながら縁談を断ったことから、地位や容姿よりも、国のために働く姿勢こそ重要だと考えられていたのだと推測できる。

また、『大和家の翼賛日記』では荷車を引くおじさんを手伝う様子[86]、『われらよくさん一家』では農作業を率先して手伝う様子[87]などが三郎を主人公に描かれており、少年には家事や困っている人を積極的に手伝うことが求められていた。

３　理想の女性像

続いて本節では、当時の理想的な女性像を浮き彫りにする。

最も多かったのは多産に関する内容であった。昭和15年５月に国民優生法が制定され、翌年１月に人口増加が喫緊の要務であることが記された人口政策確立要綱が閣議決定された。それ以降、出産や結婚といったテーマに光が当たるようになっていた[88]。

『写真週報』にて、一家の母であるたみ子は「７人の子の母であり、そしてまた或いはそれ以上の子の母たるかも知れない。自分でも産めるだけ産み、育てたいといっている。」[89] と紹介されている。また、長女のさくらは「腰ぶとの多産系国策型を意味する“翼賛型美人”」[90] と説明されており、これらのことからも多産が推奨されていることが見てとれる。また、『大和家の翼賛日記』では、おままごとで五つ子が誕生し祝福する様子[91] や、弓矢が命中し切れた蔓は安産のお守りになると聞いた三郎が友達２人と３人で三つ子のお守りをこしらえるために弓を引く様子[92] などが描かれていた。また、『われらよくさん一家』には、鶏すらも国策に沿って３つ卵を産む様子[93] や、さくらの縁談相手を紹介され、その相手が金持ちであることを熱弁されたたみ子が「財産と三三九度させるのはまっぴら」、「財産は子供をつくること」と怒る様子[94] などがあった。

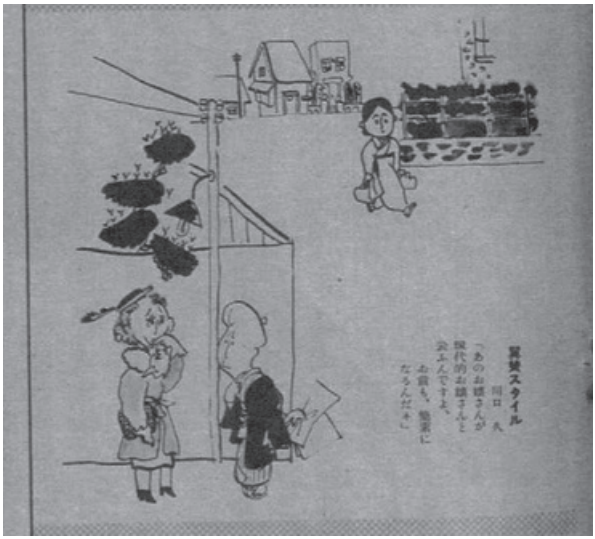
結婚について描かれたものも多く存在していた。『大和家の翼賛日記』では、“早婚奨励”と書かれた新聞記事を目にした賛平が、さくらの写真をたくさん用意して優生相談所に行こうとする様子[95] が描かれていた。昭和15年に国立優生結婚相談所ができたことから、このような内容の漫画が作られたのだろう。

また、早婚を奨励するために、晩婚の危険性を描いたものもあった。『朝日新聞』の『新春の計』では、「食べたい栄養　恥ずかしいは禁物　弊害多い晩婚を避けよ」[96] という記事が掲載された。この記事は竹内茂代という医学博士による解説記事で、「日本人の結婚適齢期は女20歳男25歳迄に引き下げなければ今後の国家の発展にもえらい影響を及ぼすそうだ」と述べられている。その理由としては、「最高出産年齢は20～21歳で25歳になると出産率がグッと落ち初める。この落ち初めの頃に日本の女の大部分が結婚するようになるのだから大変なのだ」と説明されており、子供をたくさん産むためにも、早く結婚するべきだという考えが展開されていたことが分かる。

次に、女性の見た目に関する記述も目立った。昭和15年７月に商工省が奢侈品等製造販売制限規則を施行するなど、政府は奢侈贅沢品に対する規制を強めていたが[97]、『翼賛一家』にもそれが反映されていた。

『写真週報』におけるさくらの紹介文には、「パーマネントを排して富士額の束髪、求婚状が山と飛び込んでいますが当人はモンペを不断に着けて平然たるもの。彼女は心に化粧をする。『心の化粧はお店でもらうことができません。それは自分自身でつくりだすものです。』」とあり、女性らしいパーマや化粧は好まれていなかったことが窺える。同様に、『われらよくさん一家』では、さくらに対して

図６　「翼賛スタイル」



（『同盟グラフ』昭和16年２月号）

賛平が「髪なぞいじるのは旧体制だ」と叱る様子[98]が描かれている。また、『同盟グラフ』というグラフ誌には、「翼賛スタイル」[99]というタイトルでイラストが掲載されており、華美な服装の娘に対して母親が「あのお嬢さんが現代的なお嬢さんと云うんですよ。お前も、簡素になるんだネ」とさくらを指しながら言う様子が描かれていた（図６）。

おわりに

以上、本論文では『翼賛一家』という漫画がどのようなもので、どんなメディアに取り上げられ、何を読者に伝えたのかを考察した。同漫画は、大政翼賛会宣伝部と新日本漫画家協会が、大政翼賛運動とはどのようなものなのかを広く国民に伝えるために作り出したものであった。11人の理想的な家族である「大和一家」は、簡単な線画で形作られていた。また、協会に所属していない人でも自由にキャラクターを利用することができたため、新聞や雑誌に留まらず、ラジオ、紙芝居、俳句など様々なメディアに登場し、人気を博した。『翼賛一家』の描いた内容には、貯金や節約、運動、禁煙・禁酒など、時局に関するものが多く、戦時

中の銃後の生活の理想像を描かれていた。また、男性キャラクターは体力があり、働き者であることが強調されており、当時の理想の男性像が明らかとなった。一方で、女性は多産・早婚で地味な服装が求められる傾向にあった。

なお、多くのメディアに取り上げられ、話題となった『翼賛一家』であったが、世の中の関心が日米関係など国際関係に移り、銃後の生活を描く『翼賛一家』ではその役割を果たすことができなかったからか、昭和16年７月頃からほとんどその姿は見られなくなった。

1） 清水勲『図説　漫画の歴史』（河出書房新社、平成11年）。
2） 長浜功『国民精神総動員運動民衆教化動員資料集成Ⅱ』（明石書店、昭和63年）。
3） 櫻本富雄『戦争とマンガ』（創土社、平成12年）。
4） 大政翼賛会「さあ、実践の年だ―進む大政翼賛会―」（『写真週報』昭和16年１月号）。ここでの「2601年」は皇紀であり、昭和16年を意味する。
5） 同上。
6） 井上祐子『戦時グラフ雑誌の宣伝戦　十五年戦争下の「日本」イメージ』（青弓社、平成21年）。
7） 「『大和一家』の面々と隣組の図」（『朝日新聞西部版』昭和15年12月５日朝刊７面）。
8） 「“翼賛一家”の登場」（『読売新聞』昭和15年12月５日朝刊８面）。
9） 同上。
10） 同上。
11） 「漫画“翼賛一家”を募る」（『朝日新聞』昭和15年12月５日朝刊４面）。
12） 「古釘を蒐める“翼賛一家”」（『朝日新聞』昭和15年12月８日朝刊７面）。
13） 「三つ児が揃って軍人」（『朝日新聞』昭和16年１月28日朝刊７面）。
14） 「新体制『隣組風景』 町会自作自演の傑作」（『大阪毎日新聞』朝刊５面）。
15） 「大和翼賛一家」（『日産農業』昭和16年６月号）。
16） 楓井金之助『嗚呼特別攻撃隊』（国民新聞社、昭和17年）。
17） 前掲「漫画“翼賛一家”を募る」。
18） 「応募漫画　翼賛一家“お昼は代用食”」（『朝日新聞』昭和15年12月６日朝刊４面）。
19） 「応募漫画　翼賛一家“娯楽も時間制”」（『朝日新聞』昭和15年12月10日朝刊４面）。
20） 「応募漫画　翼賛一家“火に当るより陽にあたれ”」（『朝日新聞』昭和15年12月12日朝刊４面）。
21） 「翼賛一家・新春の計①　元日の夜に家庭常会　万事虚礼廃止で行く」（『朝日新聞』昭和16年１月１日朝刊４面）。
22） 「翼賛一家・新春の計②　仕事を中心に新理念を摑め」（『朝日新聞』昭和16年１月２日朝刊４面）。

23）「翼賛一家・新春の計③　進んだ文化が長生きに支障　文化の長、短所を知るが大切」（『朝日新聞』昭和16年１月４日朝刊４面）。
24）「翼賛一家・新春の計⑤　入試に禍する母親の心配顔　平常のしつけを生地のままに」（『朝日新聞』昭和16年１月７日朝刊４面）。
25）「翼賛一家・新春の計⑦　脂肪ぶとりと高血圧への用心　厄年の悲哀を味わぬように」（『朝日新聞』昭和16年１月９日朝刊４面）。
26）「翼賛一家・新春の計⑧　食べたい栄養　恥ずかしいは禁物　弊害多い晩婚はさけよ」（『朝日新聞』昭和16年１月11日朝刊４面）。
27）「翼賛一家・新春の計⑨　歴史への理解　今年こそ青年の第一の仕事」（『朝日新聞』昭和16年１月14日朝刊４面）。
28）「翼賛一家・新春の計⑩　自然の生活を妨げるな　乳児の成長と母の立場」（『朝日新聞』昭和16年１月15日朝刊４面）。
29）「翼賛一家・新春の計⑥　何を読むか　神話・伝説・古典・動物記など　たのしい読書の基準」（『朝日新聞』昭和16年１月８日朝刊４面）。
30）「漫画『大和家の翼賛日記』95話」（『読売新聞』昭和16年４月２日朝刊４面）。
31）「翼賛一家　漫画映画のシナリオ募集」（『読売新聞』昭和16年１月28日朝刊３面）。
32）「翼賛一家漫画映画のシナリオ　愈々20日締切！」（『読売新聞』昭和16年２月18日夕刊３面）。
33）「翼賛一家漫画映画シナリオ決定」（『読売新聞』昭和16年３月２日朝刊７面）。
34）同時期の東京日日新聞には、島田啓三による『仲よし隣組』という別の４コマ漫画が掲載されていた。
35）「大和一家お目見得『新漫画派集団』競演　４日夕刊（５日付）から連載」（『大阪毎日』昭和16年１月２日朝刊７面）。
36）前掲「『大和一家』の面々と隣組の図」。
37）横田順彌『近代日本奇想小説史　入門篇』（株式会社ビラールプレス、平成24年）。
38）南達彦「ユーモア小説　大和一家とアメリカ」（『新青年』昭和16年３月号）。
39）中島三郎「翼賛一家さぶろう君」（『少年倶楽部』昭和16年４月号）。
40）吉田優子「新体制翼賛正月大和一家」（『女性展望』昭和16年１月号）。
41）吉田優子「翼賛二月大和一家」（『女性展望』昭和16年２月号）。
42）吉田優子「大和一家の翼賛三月」（『女性展望』昭和16年３月号）。
43）吉田優子「大和家翼賛四月」（『女性展望』昭和16年４月号）。
44）吉田優子「翼賛五月」（『女性展望』昭和16年５月号）。
45）「大和一家」（『若草』昭和16年４月号）。
46）芳垣青天「翼賛一家の朗らかな農園」（『農業世界』昭和16年７月号）。
47）「声の『翼賛一家』」（『朝日新聞』昭和15年12月21日夕刊２面）。
48）同上。
49）「紙芝居“翼賛一家”」（『読売新聞』昭和15年12月27日夕刊２面）。
50）同上。
51）福田俊二、加藤正義『昭和流行歌総覧（戦前・戦中編）』（柘植書房新書、平成

19年)。

52) 河野たつろ『厚生国民劇集』(大正書院、昭和17年)。

53) 前掲『昭和流行歌総覧(戦前・戦中編)』。

54) 同上。

55) 渋井二夫『最新国民体育舞踊教本』(新生閣書店、昭和16年)。

56) 同上。

57) 「お雛様に大和一家」(『読売新聞』昭和16年1月28日朝刊3面)。

58) 三宅巨郎『川柳翼賛』(大日本文化研究会、昭和17年)。

59) 小田義幸「『写真週報』に見る模範的国民生活」(玉井清編『戦時日本の国民意識―国策グラフ『写真週報』とその時代―』慶應義塾大学出版会、平成20年)。

60) 「漫画『大和家の翼賛日記』12話」(『読売新聞』昭和15年12月21日朝刊4面)。

61) 「漫画『大和家の翼賛日記』92話」(『読売新聞』昭和16年3月25日朝刊4面)。

62) 「漫画『われらよくさん一家』35話」(『大阪毎日新聞』昭和16年2月16日夕刊2面)。

63) 「漫画『われらよくさん一家』18話」(『大阪毎日新聞』昭和16年1月25日夕刊2面)。

64) 「漫画『われらよくさん一家』99話」(『大阪毎日新聞』昭和16年5月9日夕刊2面)。

65) 「漫画『大和家の翼賛日記』3話」(『読売新聞』昭和15年12月12日朝刊4面)。

66) 「漫画『われらよくさん一家』23話」(『大阪毎日新聞』昭和16年2月1日夕刊2面)。

67) 「漫画『大和家の翼賛日記』60話」(『読売新聞』昭和16年2月17日朝刊4面)。

68) 「漫画『大和家の翼賛日記』69話」(『読売新聞』昭和16年2月26日朝刊4面)。

69) 「翼賛一家・大和家の家族」(『写真週報』昭和16年1月号)。

70) 「漫画『大和家の翼賛日記』54話」(『読売新聞』昭和16年2月11日朝刊4面)。

71) 「漫画『われらよくさん一家』72話」(『大阪毎日新聞』昭和16年4月3日夕刊2面)。

72) 「応募漫画　翼賛一家“徒歩奨励”」(『朝日新聞』昭和15年12月14日朝刊4面)。

73) 永田金市「歩行で鍛えよ」(『写真週報』昭和16年2月号)。

74) 「漫画『大和家の翼賛日記』58話」(『読売新聞』昭和16年2月15日朝刊4面)。

75) 「漫画『われらよくさん一家』117話」(『大阪毎日新聞』昭和16年5月31日夕刊2面)。

76) 「漫画『われらよくさん一家』21話」(『大阪毎日新聞』昭和16年1月30日夕刊2面)。

77) 「漫画『われらよくさん一家』73話」(『大阪毎日新聞』昭和16年4月5日夕刊2面)。

78) 「漫画『われらよくさん一家』143話」(『大阪毎日新聞』昭和16年7月6日夕刊2面)。

79) 奥健太郎「『写真週報』に見る「健民運動」」(前掲『戦時日本の国民意識―国策

グラフ『写真週報』とその時代―』）。

80）「漫画『大和家の翼賛日記』43話」（『読売新聞』昭和16年１月29日朝刊４面）。

81）前掲「大和一家」。

82）「漫画『われらよくさん一家』32話」（『大阪毎日新聞』昭和16年２月13日夕刊２面）。

83）「漫画『われらよくさん一家』13話」（『大阪毎日新聞』昭和16年１月19日夕刊２面）。

84）前掲「翼賛一家・新春の計⑦　脂肪ぶとりと高血圧への用心　厄年の悲哀を味わぬように」。

85）前掲「大和一家」。

86）「漫画『大和家の翼賛日記』23話」（『読売新聞』昭和16年１月６日朝刊４面）。

87）「漫画『われらよくさん一家』83話」（『大阪毎日新聞』昭和16年４月18日夕刊２面）。

88）前掲・奥「『写真週報』に見る「健民運動」」。

89）前掲「翼賛一家・大和家の家族」。

90）同上。

91）「漫画『大和家の翼賛日記』41話」（『読売新聞』昭和16年１月26日朝刊４面）。

92）「漫画『大和家の翼賛日記』57話」（『読売新聞』昭和16年２月14日朝刊４面）。

93）「漫画『われらよくさん一家』10話」（『大阪毎日新聞』昭和16年１月16日夕刊２面）。

94）「漫画『われらよくさん一家』55話」（『大阪毎日新聞』昭和16年３月12日夕刊２面）。

95）「漫画『大和家の翼賛日記』40話」（『読売新聞』昭和16年１月25日朝刊４面）。

96）前掲「翼賛一家・新春の計⑧　食べたい栄養　恥ずかしいは禁物　弊害多い晩婚はさけよ」。

97）前掲・小田「『写真週報』に見る模範的国民生活」。

98）「漫画『われらよくさん一家』31話」（『大阪毎日新聞』昭和16年２月11日夕刊２面）。

99）川口久「翼賛スタイル」（『同盟グラフ』昭和16年２月号）。

※「翼賛一家」についての研究として、大塚英志による『動員のメディアミックス』という著書があるが、2017年９月末に出版されたものであるため、本論文には考慮していない。